

【財政用語解説】

自主財源：町税、分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、繰入金、諸収入など自主的に収入し得る財源

依存財源：地方交付税、国庫支出金、県支出金、地方譲与税、地方債など、自主財源以外の収入

町税：町民税、固定資産税など皆さんが納めた税金

繰入金：町の基金からの繰入金

諸収入：町税の延滞金など他の収入科目に含まれない収入

地方交付税：地域間の税源の不均衡を調整し、すべての地方公共団体が一定水準の行政サービスを提供できるようにするために、国が地方公共団体の一般財源として配分する税

国庫支出金・県支出金：各種事業に対する国・県からの補助金など

町債：資金調達などのための長期借入金

人件費：議員報酬、各種委員報酬、特別職給与、職員給与、地方公務員共済組合負担金など

扶助費：社会保障制度の一環として、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法などにに基づき、生活を維持するために支出される経費や各種扶助の経費

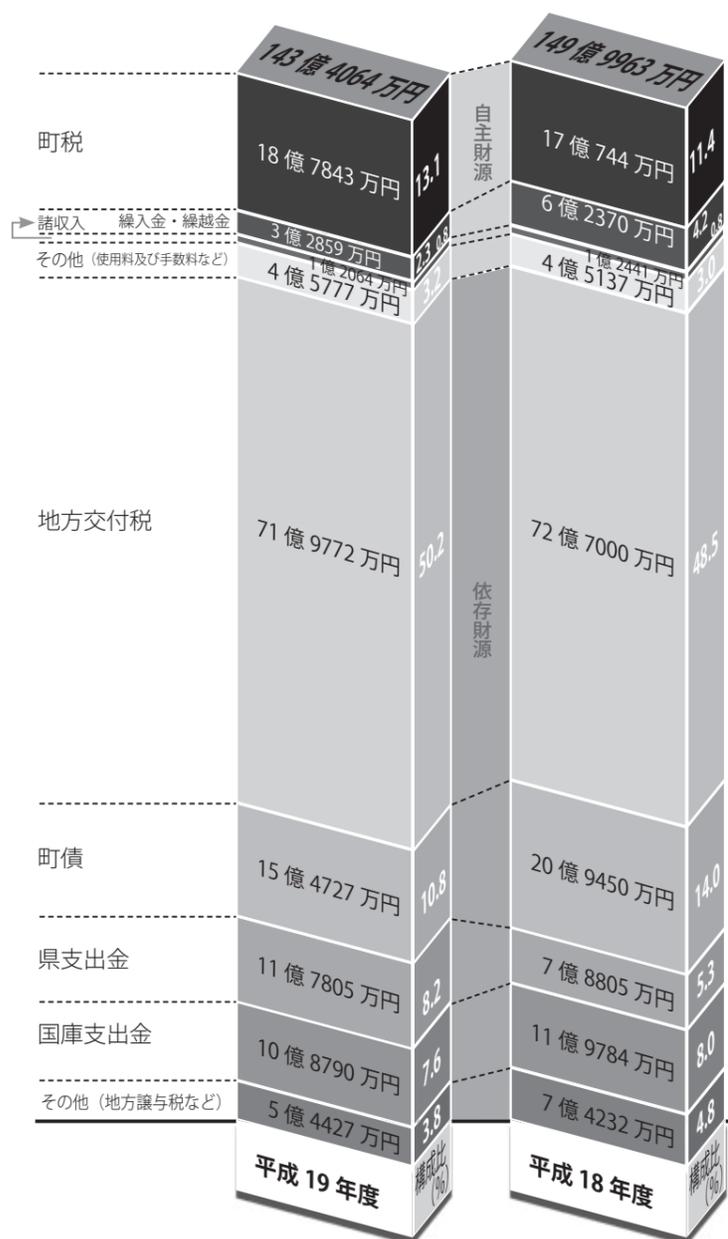
公債費：町債の元利償還金および一時借入金の合算額

普通建設事業費：道路、学校など公共用または公用施設の建設事業に要する経費

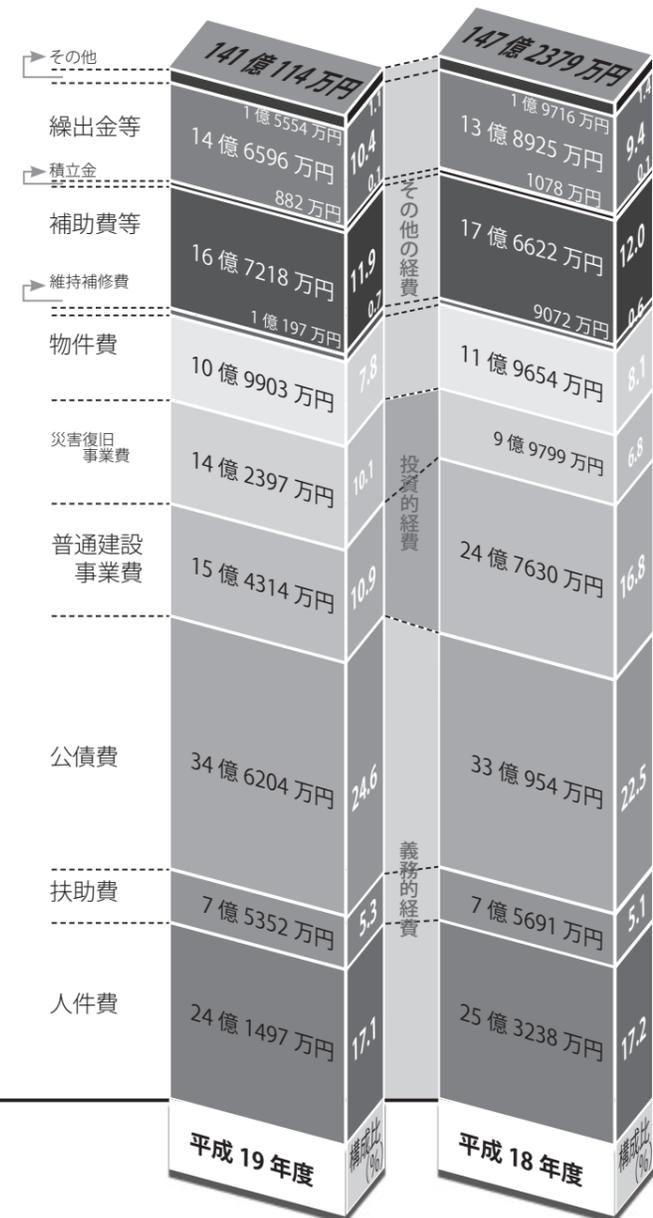
物件費：人件費、維持補修費、扶助費、補助費等以外の消費的性質の経費の総称。臨時職員の賃金、需用費（消耗品等）、役務費（郵便料、火災保険等の保険料等）、備品購入費など

補助費等：各種団体への補助金、奥能登クリーン組合や宇出津病院への負担金など

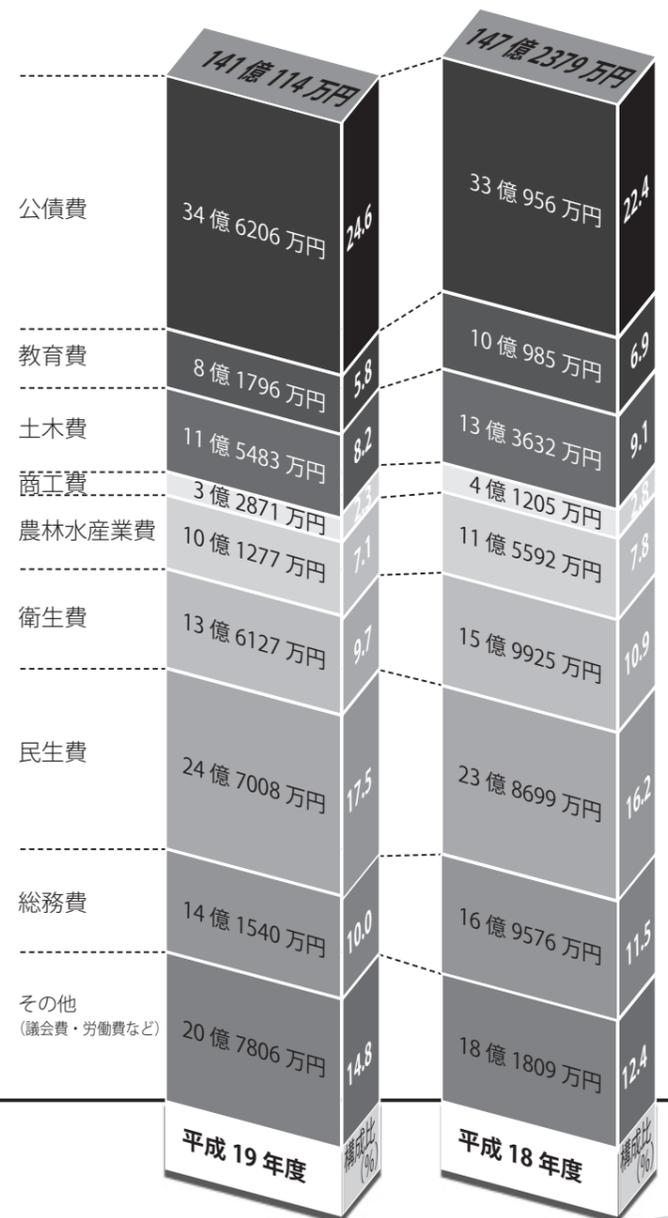
繰出金等：一般会計と特別会計、または特別会計相互間で支出される経費



■歳入決算額の構成



■歳出性質別決算額の構成



■歳出目的別決算額の構成

一般会計「歳出」の特徴
災害復旧費4億2598万円増

歳出全体としては人件費、扶助費、物件費、補助費等、普通建設事業費などが減少し、災害復旧費や公債費などが増加しました。

人件費は職員数の減などにより1億1741万円の減、普通建設事業費は単独事業費を中心に9億3316万円の減となりました。補助費等は珠洲市・能登町環境衛生組合が解散したことなどにより9404万円の減となりました。

しかし、公債費は合併振興基金造成の地方債などの元金償還が始まったことなどにより1億5250万円の増、災害復旧事業費は能登半島地震や豪雨災害のため4億2598万円の増となりました。

3月25日発生の前登半島地震による増額措置はあったものの合併算定経費の段階的な割落とにより7228万円の減、町債については、能登半島地震や豪雨災害のため災害復旧事業費が大幅に増となったものの、公債費負担の軽減を図るため新規発行の抑制に極力努めたことや臨時財政対策債の減により5億4723万円の減額となりました。

一般会計「歳入」の特徴
地方交付税7228万円減

歳入全体としては地方譲与税、国庫支出金、町債などが前年度より減少し、町税、県支出金などが増加しました。税源移譲により町税は1億7099万円の増となりましたが、所得譲与税が皆減となったことなどにより、譲与税関係が1億9805万円の減となりました。

地方交付税は、特別交付税において

平成19年度 決算報告

平成19年度決算について、行政活動のためのお金はどこから来て何に使われたか、そのあらましを公表します。

一般会計は2億3950万円の黒字

一般会計の歳入総額は143億4064万円、歳出総額は141億114万円となり、歳入歳出の差引額は2億3950万円の黒字で、翌年度へ繰り越すべき財源3959万円を除いた実質収支は1億9991万円となりました。

■特別会計決算の状況

区 分	歳 入	歳 出	差 引
有線放送事業	1億6906万円	1億5975万円	931万円
国民健康保険（保険事業勘定）	29億2877万円	28億4940万円	7937万円
国民健康保険（直営診療施設勘定）	697万円	673万円	24万円
老人保健	31億2650万円	31億2650万円	—
介護保険（保険事業勘定）	24億1069万円	23億6008万円	5061万円
介護保険（サービス事業勘定）	1579万円	1486万円	93万円

■公営企業会計決算の状況

区 分	収 入	支 出	収 支	資金不足比率	早期健全化基準	
観光施設	7540万円	7530万円	10万円	—%	20.0%	
公共下水道事業	9億6043万円	9億6009万円	34万円	—%	20.0%	
農業集落排水事業	2億9897万円	2億9878万円	19万円	—%	20.0%	
漁業集落排水事業	2696万円	2693万円	3万円	—%	20.0%	
浄化槽整備推進事業	4922万円	4827万円	95万円	—%	20.0%	
簡易水道事業	6億2654万円	6億2648万円	6万円	—%	20.0%	
水道事業	収益的収支	4億116万円	3億5519万円	4597万円	—%	20.0%
	資本的収支	4億3047万円	7億386万円	△2億7339万円		
病院事業	収益的収支	23億1605万円	24億7702万円	△1億6097万円	10.0%	20.0%
	資本的収支	1億1789万円	1億7128万円	△5339万円		

財政指標から見る能登町の財政状況

区 分	起債制限比率 【財政構造の健全性】 15%～20%→要注意 20%以上→危険	経常収支比率 【財政の弾力性】 70%～80%→妥当 80%以上→要注意	実質赤字比率 【財政の弾力性】 13.51%～20% →早期健全化基準 20%以上 →財政再生基準※3	連結実質赤字比率 【全会計の赤字割合】 18.51%～40% →早期健全化基準 40%以上 →財政再生基準※3	実質公債費比率 【借金の実質負担割合】 18%～25% →警戒・適正化計画策定 25%～35% →早期健全化基準 35%以上 →財政再生基準	将来負担比率 【一般会計等の将来負担割合】 350%以上 →早期健全化基準
平成19年度	14.1% (未発表)	99.7% (未発表)	—% (未発表)	—% (未発表)	21.1% (未発表)	208.9% (未発表)
平成18年度	16.1% (12.2%)	99.7% (95.2%)			23.2% (18.3%) ※6 [22.3%]	
平成17年度	17.5% (11.9%)	104.7% (93.4%)			22.5% (17.0%) ※6 [23.1%]	

※1 ()内は県内平均値。—%は赤字比率がない ※2 財政健全化法により今回から「実質公債費比率」「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「将来負担比率」の公表が義務付けられました ※3 実質赤字比率および連結実質赤字比率の早期健全化基準（13.51%、18.51%）は能登町の平成19年度標準財政規模から算出されます ※4 早期健全化基準を超えた場合、財政健全化計画の策定が義務づけられます（黄信号） ※5 財政再生基準を超えた場合、財政再生計画の策定が義務づけられます（赤信号） ※6 平成17・18年度の実質公債費率は本年度に制度改正があったため、上段が改正前比率、下段 []内が改正後比率

財政状況の特徴

経常収支比率は昨年度と同じく99・7%となりました。大幅な事務事業の見直しを行うとともに、職員手当の一律削減などの臨時的な措置を行ったにもかかわらず同率となったものであり、依然として財政危機を完全に脱したわけではありません。起債制限比率は16・1%から14・1%と2・0%改善しました。

平成17年度決算から導入された「実質公債費比率」は、町全体の借金（公債費）の実質負担割合を表す数値であり、21・1%と非常に高い比率です。

また平成19年6月に定められた財政健全化法によって、平成19年度決算を基に4つの指標と公営企業の資金不足比率の公表が義務付けられました。このうち、将来負担比率は、208・9%と比較的高い比率となっています。これは借金の残高や債務負担行為、一部事務組合の借金残高のうち、町が将来負担すべきものの負担割合です。今後は合併したスケールメリットをさらに生かし、一つの町として適正な財政規模となるよう行政改革大綱や集中改革プラン、定員適正化計画を強力に推進し、さらなる事務事業の見直しや行政組織の改編、公共施設の統合を進める必要があります。

合併後3年がたち、その効果が徐々に現れ始めたこと、さらに行政改革による事業の選択と集中の結果、財政の健全化に向けて少しずつ進んでいると言えます。



能

登町議会第3回定例会は、9月5日に招集されました。会期を12日までの8日間と定め、平成20年度補正予算などの議案8件のほか、諮問2件、報告1件、平成19年度決算認定など認定13件が上程されました。

提案理由の説明を受けて11人が議案に対する大綱的質疑を行いました。続いて人権擁護委員候補者の推薦に関する諮問2件について適任であると、そのほかの議案は各常任委員会に、決算認定は組織された決算特別委員会に付託されました。

最終日の採決では、各常任委員長が報告を受けて議案8件が原案のとおり可決されました。その後、請負契約の締結に関する追加議案3件、意見書に関する発議4件が提出され、原案のとおり可決されました。

決算特別委員会

〈委員長〉河田信彰
〈副委員長〉山本一朗
〈委員〉酒元法子、菊田俊夫、鍛冶谷真一、久田良平

【可決された議案…11件】

（平成20年度）
一般会計補正予算（第4号）▼
歳入歳出それぞれ1億8617万5千円を追加し予算総額を130億906万1千円とする。主な内容は、災害復旧費1億161万7千円の追加など
介護保険特別会計補正予算（第1号）
公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）
浄化槽整備推進事業特別会計補正予算（第1号）
病院事業会計補正予算（第1号）
議会議員等の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部

【提出された諮問…2件】

人権擁護委員候補者の推薦について▼高山一夫さん（63歳）
瑞穂Ⅱを人権擁護委員候補者として適任とする

を改正する条例について▼地方自治法の一部改正に伴う改正公益法人等への職員の派遣等に関する条例等の一部を改正する条例について▼新公益法人制度施行に伴う改正
請負契約の締結について（白丸地区コミュニティ施設建設工事）▼指名競争入札で落札した(株)西中建設Ⅱと契約金額6825万円で請負契約を締結
請負契約の締結について（平成20年度能登町特定環境保全公共下水道事業（松波処理区）処理場機械工事）▼指名競争入札で落札した(株)柿本商会Ⅱと契約金額1億6248万7500円で請負契約を締結

【可決された発議…4件】

新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について▼合併に伴い過疎地域に該当しなくなった市町村も過疎地域とみなすよう要望する
教育予算の拡充を求める意見書の提出について▼どの地域に住んでいても無償で良質な教育が受けられるよう求める
北陸職業能力開発短期大学校附属石川職業能力開発短期大学校の存続に関する意見書の提出について▼県内企業の中核的な役割を担う人材育成施設として存続の考慮を要望する
道路整備の促進に関する意見書の提出について▼道路整備に必要な財源の確保とともに地方への配分割合を高めること、地方が主体的に道路整備が行えるよ

【提出された報告…1件】

平成19年度決算に基づく能登町の健全化判断比率及び資金不足比率の報告について▼8月決算報告を参照

うな財源の確保、拡充を求める【継続審査となった認定…13件】
（平成19年度）
①一般会計歳入歳出決算、②有線放送事業特別会計歳入歳出決算、③国民健康保険特別会計歳入歳出決算、④老人保健特別会計歳入歳出決算、⑤介護保険特別会計歳入歳出決算、⑥観光施設特別会計歳入歳出決算、⑦公共下水道事業特別会計歳入歳出決算、⑧農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算、⑨漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算、⑩浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算、⑪簡易水道事業特別会計歳入歳出決算、⑫水道事業会計決算、⑬病院事業会計決算

役場人事異動（平成20年10月1日付）

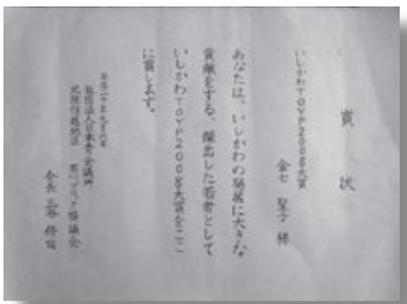
- 課長級
宮下並樹（議会議務局長兼監査委員事務担当）
福田政男（農林水産課長兼柳田庁舎長兼柳田サービス室長）
加須屋勲（農林水産課担当課長）
佐野勝二（商工観光課長兼海洋深層水対策室長）

能 登井プロジェクトの地域リーダーを務める金七聖子さん(32歳)と松波さんが「いしかわTOYYP2008大賞」を受賞した。

TOYYPとは「傑出した若者たち (The Outstanding Young Persons)」という意味。(株)日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会が将来性ある若者を選出し、その榮譽をたたえるとともにさらなる地域の活力へとつなげようとする事業だ。19回目を迎えた今年、さまざまな分野で活躍する30人以上の応募、推薦の中から金七さんをはじめとする5人が選ばれた。

「最初のころは、行政と一緒に仕事をすることも初めてでもわからない状態だった」とプロジェクト参加当時は振り返る金七さん。会議を重ねても、いろいろな意見は出るがまとまらない状態が続いたという。そこで金七さんは、意見を紙に一つずつ書いていくブレインストーミングという手法を試みた。「たくさんの意見の中でも、特に食べ物の話がみんな熱かった。やっぱり『能登は食』だと思った」という。

さらに会議を重ねたメンバーが導き出した答えが「能登は米がおいしい。そこに旬の食材を乗せてどんぶりを作ろう」とい



Ishikawa TOYYP 2008

能登井を石川県の名物に —
能登を愛する酒蔵若女将の挑戦

うことだった。ネーミングを「能登井」に決め、食材はもとより器や箸までも能登産にこだわる能登井の定義も決まった。



能登井の提供がはじまった2007年12月1日、道場六三郎さん、谷本県知事と能登井を試食

「当時は能登半島地震で観光客も減っていた。能登井で人が呼べれば絶対効果があると思っていた」という。新聞、テレビなどマスコミも予想以上に大きく

く取り上げ、能登井は順調なスタートを切った。

という危機感も感じている。

夏 ・秋バージョンでも参加店舗が増えるなど地域の中でも認知度は上がり、経済効果も徐々に出てきている能登井だが今後の課題も多い。「お客さんの要望に臨機応変に対応できるお店や向上心のあ

「全 国の人から『石川に行ったら能登井』といわれるような名物にしたい。能登井にはそれだけの可能性がある」と笑顔で夢を語る金七さん。能登井の生みの親として、これからもその成長を支え、能登の地域おこしに挑戦していく。

いしかわTOYYP2008大賞受賞
金七 聖子さん
Kinshichi Seiko



【きんしち・せいこ】
京都の大学を卒業後、金沢市内の酒造メーカーを経て、7年前に実家の松波酒造に「若女将」として帰省。「能登をなんとかしたい」と2007年に奥能登ウエルカムプロジェクト推進協議会に参加する。松波在住、32歳。

能登町の新しい Assistant Language Teacher を紹介します!



町内 11 の小中学校を対象に英語授業の補助を行う外国語指導助手 (ALT) が 8 月に来日しました。新任辞令交付式で持木町長から辞令を受けた 2 人は今後、町内の子どもたちに「生きた英語」を伝えるための授業をサポートしていきます。

■マシュー・リー・サーバスさん (22歳)

【出身】アメリカ 【趣味】料理
【好きなスポーツ】ベースボール、ゴルフ
【ひとこと】

2 年前に京都に留学していました。そのとき、とてもすばらしい時間を過ごせたので、また日本へ戻ってきました。学校で英語を教えることをとても楽しみにしています。美しい能登で暮らし、働けることを大変嬉しく思います。



■ニコラ・ソーバツ・ロビンさん (22歳)

【出身】ニュージーランド
【趣味】スポーツ観戦
【好きなスポーツ】

バレーボール、ネットボール
【ひとこと】

学校に行って英語の勉強の手助けをするのと同時に、一緒に話すことでわたしの日本語も上達させたいです。

子どもたちに英語を楽しんでもらって、コミュニケーションを図っていききたいです。



能登町立三波公民館
字波並 3-111 ☎ 62-0807
■地区世帯数 357 ■人口 909

■三波公民館

もっと気軽に使える公民館として

三波地区は、6 町内ある各地域から公民館運営審議員や各役員が選ばれ公民館行事について各種団体長などの意見を集めながら行事を企画運営しています。



月 2 回公民館で開かれるフラワーアレンジメント。講師の指導のもと、わきあいあいと会話をしながら花に親しむ

公民館のパッチワーク教室や、スポーツ教室などは地域の皆さんが主となって活動しています。また、伝統行事を受け継ぐ場としても公民館は利用されています。毎年 1 月に波並地区で行われる左義長「扇祓い」に合わせ、地元保存会が子どもたちを対象に口上の練習会を開いています。館長の青木実成さんは「今後はより身近な公民館として地域の声を聞きながら、老若男女に親しまれる行事を企画していきたい」と話していました。



昨年行われた三波地区敬老会の様子。参加者数を上回るたくさんのボランティアの力に支えられ、盛大に開催された

■三波公民館で楽しめる教室・サークル

教室サークル名	開催日	教室サークル名	開催日
パッチワーク	毎週木 19:00	ソフトバレー	毎週金 19:30
フラワーアレンジメント	第 2・4 水 19:00	ソフトテニス	毎週木 19:30

※スポーツは旧三波小学校体育館



能登町立瑞穂公民館
字瑞穂 10-166 ☎ 67-2941
■地区世帯数 412 ■人口 1,067

■瑞穂公民館

イベントを通して地域をつなげる

瑞穂公民館で毎月第 1 火曜日に行われている運営委員会には、毎回 15 人ほどの役員が出席します。この会議は年間行事について話し合うなど、各地区からの意見を出しながら公民館事業の企画運営を行っています。

公民館行事の中で最も大きなイベントである「社会体育大会」は 6 月 8 日に開催されました。4 地区に分かれて対抗戦形式で争うこの大会には、毎年たくさんの人が集まり、今年は 200 人以上が参加しました。



体育大会での恒例行事、地区対抗の「長縄跳び競争」に挑戦中。縄を回す人も心を合わせて懸命にジャンプ!

「夏祭り in みずほ」と題して催された盆踊り大会は、子どもからお年寄りまでが一緒になって楽しめます。公民館で練習している子ども太鼓の披露や歌謡ショー、お楽しみ抽選会なども行われます。ほかにもヨーヨー釣りやわたがし、ぼん菓子ショーなども準備され、会場には大勢の人が足を運び、夏の一夜を満喫しました。

好きなものを選んで学べる趣味の教室やサークル活動

■瑞穂公民館で楽しめる教室・サークル

教室サークル名	開催日	教室サークル名	開催日
茶道教室	第 2・4 木 13:30	郷土芸能伝承教室	第 2・4 土 9:00
手芸教室	第 2・3 水 19:00	コーラス	毎月 1 回 (随時)
子どもスポレク	第 2・4 土 10:00	ニュースポーツ教室	毎週月 20:00
ソフトバレークラブ	毎週水 20:00	ソフトテニス教室	毎週木 20:00

公民館通信 第 15 号

瑞穂公民館 & 三波公民館 編

町内すべての公民館を巡ってきた「公民館通信」。最終回となった今回は能登地区にある瑞穂公民館と三波公民館を紹介します。

では特にスポーツ教室が充実しています。旧瑞穂小中学校の体育館などを利用し、さまざまな世代の人たちが手軽なスポーツに親しみ、健康づくりに励んでいます。



能登地区独自ルールでの 5 人制ソフトバレーは柔らかい専用ボールを使ってプレー。11 月には公民館で大会も開かれる

芸術の秋は公民館で「作品展」を開催!

「今年はどの行事も呼び掛けに応えてもらって参加者が多いんですよ」と嬉しそうに話すのは 4 月から館長に就任した山下国昭さん。今年は秋に新しい行事を計画したそうです。10 月に開催予定だという「作品展」。これは地域の皆さんの自慢の芸術作品を展示して、たくさんの人に楽しんでもらおうと企画されたものです。

新たな風を吹き込みながら、伝統的な行事も大切に継続している瑞穂公民館。今後の公民館のあり方について山下館長は「魅力的な企画作りが今の課題。さらに地域の皆さんと解け込み合って、より気軽に立ち寄れる場所にしていきたいですね」と語ります。生涯学習の場として、また地域の世代間交流の場として、公民館は明るく楽しい空間作りをこれからもずっとお手伝いします。



料理教室の様子。今後は地域の人を講師として招き、子どもたちを対象としたお菓子作りなどの教室も計画中

故田高宗男さんに旭日単光章
地域のために尽くした15年余

議会議員を長年務め、7月31日に亡くなった田高宗男さん(享年70)＝白丸＝の叙勲伝達式が9月16日、役場能都庁舎で行われました。式には妻の一枝さんと妹の吉田一美さんが出席、持木町長から一枝さんに「旭日単光章」の叙勲が伝達されました。田高さんは、平成3年に旧内浦町議会議員に当選してから15年6カ月にわたって在職しました。

一枝さんは受章にあたって「何事にも一生懸命、そして穏やかに物事を解決する人でした。努力が認められたと帰って報告します」と話しました。



勲記を掲げる田高一枝さん

日本水難救済会表彰伝達式
迅速な救助が救命につながった

(社)日本水難救済会会長表彰の伝達式が9月19日、役場能都庁舎で行われ、能登水難救済会内浦救難所が表彰を受けました。内浦救難所は4月27日、海難の通報を受け、小木港口の岩礁に乗り上げた小型イカ釣船の船長を救助しました。波が洗う足場の悪い岩礁の上で、船は45度に傾き困難を極めた救助活動だったということです。

表彰を受け取った内浦救難所長の中山謹一さんは「状況を見たときにはびっくりしましたが、周りの協力で無事に助けることができました」と救助した当時の状況を振り返っていました。



能登水難救済会理事の持木町長から表彰を受ける中山所長

最終日、能都庁舎の前で記念撮影



JAPAN TENT 2008
日本文化と家族に触れた7日間

日本各地で学ぶ留学生が石川県に集うジャパンテントが今年も8月21日から27日までの7日間開催されました。能登町にはオーストラリア、中国、カンボジア出身などの留学生9人が3泊4日の日程で訪れ、5家庭にホームステイしました。

23日、留学生と各ホストファミリーと一緒に真脇縄文館でアクセサリー作りを体験しました。また、羽根万象美術館を見学するなど、能登の文化に親しみ交流の輪を広げました。さよならパーティーでは本当の家族のように接してくれた日本の家族との別れを惜しみながら、再会を誓っていました。

小林所長から記念品を贈られる鹿渡さん



長寿者記念品贈呈
いつまでも笑顔で元気な毎日を

敬老の日にちなみ、石川県内の最高齢者となる鹿渡ヒナさん(109歳・明治32年1月1日生)の長寿を祝おうと、県能登北部保健福祉センターの小林勝義所長が記念品の授与に訪れました。小林所長から「ますます長生きしてくださいね」と言葉を掛けられた鹿渡さんは、にっこり微笑んで応えていました。

県内の満100歳以上のお年寄りは約500人。ここ10年間でおよそ5倍の数字になっているということです。百歳という節目の年齢を迎えた皆さんに対する敬意の心を忘れず、老人福祉についての理解と関心も深めていくことが大切ですね。

宇出津商店街歩行者天国
宇出津の町を1万5千個の明かりが彩る

▶しらすぎ、ひばり保育所の4・5歳児が元気よくキリコを担ぎ商店街を練り回りました



▼宇出津の町中には、縄文土器ランプシェードが並べられ、港までを明かりでつなぎました



宇出津商店街の活性化を目的とした歩行者天国が9月14日に開催され、商店街はたくさんの人でにぎわいを見せていました。毎年この時期に開かれる「お斉市」に合わせて実施される歩行者天国。ステージでは、能登町太鼓連響による太鼓や保育園児のお祭りごっこ、宇出津小学校鼓笛隊、プラスバンド演奏、ジュニアダンスなどのほか、カラオケ大会や歌謡ショーなども披露されました。

また、今年は能登ふるさと博の一環として、商店街と港を明かりでつなぐ「宇出津港灯りフェスティバル」というイベントも行われました。縄文土器ランプシェードやガラスコップなど約1万5千個の明かりが道沿いや川沿い、広場などに並べられ、幻想的な雰囲気を出していました。

能登ふるさと博・夏の終わりの恋路物語一夜
伝説の浜辺を染めた炎四千個

助三郎と鍋乃の悲恋物語が伝わる恋路海岸で8月30日、縄文焼きランプシェードなどの明かり4千個が灯されるイベント「夏の終わりの恋路物語一夜」が開催されました。

能登縄文工場の会員や町内の小学生、一般参加者らの縄文焼き作品400点をはじめ、ガラスコップに灯されたロウソクの炎が、弁天島をバックに過ぎゆく夏を幻想的に照らしました。また、特設ステージでは艶やかな舞踊や、迫力ある太鼓も披露され大勢の観客を楽しませていました。イベント成功に向けてたくさんのボランティアの汗も光った一夜となりました。



300mの光の道が海岸沿いに作られ、ハート型の灯りも浮かんだ

支えてくれる家族と一緒に100歳をお祝いました



形屋キミさん在宅長寿祝金贈呈
家族とともに向かえた満100歳

8月25日、持木町長が100歳を迎えた柳田の形屋キミさん宅を訪問し、長寿を祝福しました。町が満100歳になった人をお祝いする在宅長寿祝金制度。形屋さんは能登町となって8人目の対象者となりました。

持木町長からお祝いと花束を受け取った形屋さんは、長寿の秘訣について「好き嫌いなく何でも腹八分目に食べること」と話していました。若いころは手芸やゲートボールが趣味で、今でも手先を動かすことが好きという形屋さん。いつまでも元気で長生きしてくださいね。